

[施策名 設計手法の見直し]

プレハブオキシデーションディッチ (POD) 法の推進

○施策の概要、進捗状況、継続性

小規模の下水処理場において、プレキャスト部材を用いて施設を建設するPOD法の採用を推進することにより、コスト削減を図る。

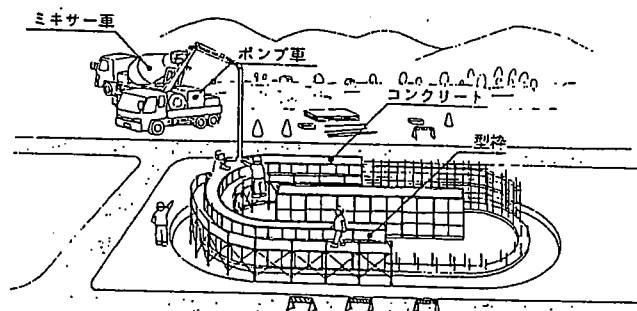
PODは、処理能力が300~1,200m³/日の範囲で100m³/日毎に標準図を作成し、設計に要する費用・時間を削減する。また、施設本体は工場製作されたプレキャスト部材や汎用品を採用することで建設工期の短縮や建設費の削減を図るものであり、地方公共団体では、経済的な小規模処理場としてPODに対する評価が高まっている。

○施策の効果

日本下水道事業団では、平成11年度に約35箇所を実施し、約14億円程度のコスト削減効果があった。

○イメージ図

[現場打オキシデーションディッチ]



[プレハブオキシデーションディッチ]

